

外傷的な育ちの生きづらさに光を届ける メンタライジング

幼少期の被虐待や離別、過度の支配など外傷的な養育体験は、その人が大人へと成長した後も心身や対人関係の持ち方に様々な影響を及ぼし、愛着外傷（アタッチメント・トラウマ）と呼ばれます。近年の日本社会でも、「ヤングケアラー」や「宗教二世」と呼ばれる人たちなど、これまで見えなくされていた愛着外傷の形が時代とともに顕われています。いつの世も変わらず、心の外傷には必ず「ひとりぼっちだ」という孤立の感覚が伴います。愛着外傷の中でうまく育たないのが、「メンタライジング（自分や他者の心理・気持ちを理解する・理解しようとする心のはたらき）」です。健康なメンタライジングは、親など養育者がその子を1人の主体として尊重しながら感情の交流をする中で育つもので、治療や支援を通じてそれを育てなおそうとするものが、メンタライジング・アプローチです。「答えは私（支援者）が持っているのではなく、あなたの中にある、だから聴かせてほしい」という、「不知の姿勢」による対話の中で、ご本人（当事者）には、支援者との間で新しいものを取り入れてみようという「変わるための信頼」が芽生えていきます。お互いが真摯に向き合う中で信頼を取り戻し、ひとりぼっちを乗り越えていく対話は治療・支援にとどまらず、さまざまな対人交流に生かせる智慧にあふれています。（崔先生からのメッセージ）

講師 崔 炯仁氏 ちえ ひよんいん



1970年、京都市生まれ、在日コリアン3世、54歳

1995年、京都府立医科大学医学部卒、精神科医、2009年ロンドン大学留学中、日本の臨床家で初めてメンタライゼーションの研修を受ける。2011年、東日本大震災京都府心のケアチームリーダー。2013年～いわくら病院、摂食障害チーム、精神科救急病棟を立ち上げる。

2024年～いわくら病院 院長

著書「メンタライゼーションでガイドする外傷的な育ちの克服」

訳書「メンタライゼーションによる家族との治療」2024

趣味 音楽 東九条マダンや、病院フェスで歌っています。

日時：2025年1月19日（日）午後2時～4時30分

場所：日本基督教団 大阪福島教会 〒530-0026 大阪市福島区福島 7-19-16



☆JR環状線福島駅の改札を出てすぐに左（北）に向かいます。すぐの踏切を渡って、三つ目の信号を左折します。そのまま直進するとやがて、右側に教会が見えてきます。愛輝幼稚園が隣接しています。徒歩で約5分です。
左の図では線路高架の横を進む行き方を現わしています。

- ◆参加費 300円
 - ◆ご来場には、公共交通機関をご利用ください
- 問い合わせ先

大阪教区事務所
（電話 06-6761-8562）
世話人 井上隆晶
（電話 090-2015-2687）
世話人 申英子
（電話 090-3829-7855）